

多摩市に八千草薫さんが来る！

会報

たまシネマ通信

#3

号外

八千草薫さん

御登壇決定！

TAMA映画賞2009授賞式

『TAMA映画賞2009授賞式』

11月28日(土) 場所：パルテノン多摩小ホール
(小田急多摩線、京王相模原線多摩センター駅徒歩5分
※新宿から急行・特急などで約30分)
入場料(1日通し券):前売 2,000円 当日 2,400円

【プログラム】

10:30-11:55 ハルフウェイ
[85分/監督:北川悦吏子 主演:北乃きい]

12:40-14:40 ウルトラミラクルラブストーリー
[120分/監督:横浜聡子 主演:松山ケンイチ]

15:00-16:30 「TAMA映画賞2009」授賞式

16:50-18:57 ディア・ドクター
[127分/監督:西川美和 主演:笑福亭鶴瓶]

(来場ゲスト一覧)

- 八千草薫(『ディア・ドクター』、『ガマの油』)
- 西川美和監督(笑福亭鶴瓶主演『ディア・ドクター』)
- 横浜聡子監督(松山ケンイチ主演『ウルトラミラクルラブストーリー』)
- 北川悦吏子監督(北乃きい主演『ハルフウェイ』)※来場予定
- 深川栄洋監督(中村雅俊主演『60歳のラブレター』)※来場予定
- 高良健吾(『フィッシュストーリー』、『ハゲタカ』、『蟹工船』)※23日も来場
- 満島ひかり(『愛のむきだし』、『プライド』)
- 金澤美穂(『容疑者Xの献身』、『60歳のラブレター』)
- 木村大作監督(映画『劔岳 点の記』)※21日来場
- 渡辺大知(『色即ぜねれいしょん』)※22日来場

☆☆☆★上記プログラムのお得な前売りチケット(1日通し券)は次の場所でお求めになれます☆☆☆★
 チケットぴあ(Pコード:555-825)、ローソンチケット(Lコード:31909)
 チケットパルテノン、啓文堂書店多摩センター店、くまざわ書店永山店、関戸公民館、永山公民館

11/23(祝)

第32回ホリプロタレント
スカウトキャラバン
グランプリ
足立梨花さん
来場!

「女子!女子!女子!」
@聖蹟桜ヶ丘・ヴィータ
ホール

11/28(土)

第22回東京国際映画祭
「日本映画・ある視点部門」
作品賞(2009年)を受賞。
松江哲明氏
来場!

「林由美香は終わらない」
@ベルブホール

11/29(日)

「等身大で描く若者像」
@ベルブホール
宮台真司氏
来場!

11/29(日)

第一部
「食育映画特集!」
@パルテノン多摩
小ホール

「今まで」と、「これから」。until now, from now

東京都多摩市の映画祭TAMA CINEMA FORUMが主催する、長編映画のコンペティション「TAMA NEW WAVE」(以下TNW)が今年で10回目を迎えました。これもひとえにTNWに関わってくださった作家の方々、審査員の方々のおかげです。

その感謝の念を込めつつ、今まで関わりを持った監督の方を訪ね、TNWに関わった後、どのような動きを見せているのか、その近況を伺ってきました。

ページ数：インタビュー監督と最新作

P7：石井裕也監督『川の底からこんにちは』

P8：江藤有吾監督『ハローグッバイ』

山岡大祐監督『ロストガール』

P9：西條雅俊監督『土井さんの不幸』 星崎久美子監督『茜さす部屋』

P10：内田伸輝監督『かざあな』

Q 東京国際映画祭お疲れ様でした。グリーンカーペットを1番乗りでしたね(笑)

歩くのは2番目だったんですけど、1番目のS・ウィーバー(注1)がモタモタしていて、係員に「抜いてください」と言われて、結果的に1番乗りになってしまいました(笑)。

(注1)アメリカの女優。代表作『エイリアン』など

Q 未公開作品を控えて、これからさらなる石井ワールドが期待できますね。

これから海外映画祭への出品や、新作の撮影も行いますし、『川の底からこんにちは』、『君と歩こう』などの国内での公開も決まっています。

「映画監督」って実際はただの現場監督です。でもむしろ現場監督のほうがよかったですよ。楽しいです。」

新進気鋭・商業映画進出の映像作家

『反逆次郎の恋』
第8回TAMA NEW WAVEノミネート

石井裕也



「36歳までに、人生を一回終わらせてみたいですね。人生が終わっても大丈夫なくらいの仕事がしたいです。」

石井裕也 Yuya Ishii

〔映画監督・俳優〕1983年生まれ 埼玉県出身 大阪芸術大学の卒業制作として自身初の長編映画『剥き出しにっぽん』を監督。この作品が第29回びわこ映画祭(FFJ)でグランプリ賞を受賞。さらに同作品は第26回バンクーバー国際映画祭コンペティション部門をはじめとする多くの海外映画祭で上映された。また、2006年から2007年にかけて驚異的なスピードで長編映画『反逆次郎の恋』、『ガール・スパークス』、『はけもの模様』を制作、完成させた。そして、それら4本全ての長編映画が第37回ロッテルダム国際映画祭で特集上映されるなど、前代未聞の新人監督が出現したとして世界的なムーブメントに発展。さらに、アジア・フィルム・アワードでは、第1回「エドワード・ヤン記念」アジア新人監督大賞を受賞し、第32回香港国際映画祭ではまたもや4本全ての長編映画が特集上映された。その後、2009年には『君と歩こう』、『川の底からこんにちは』と立て続けに長編映画を発表。2009年7月より、俳優として有限会社プレス・チャベス事業部に所属。

Q 2年前TNWの時期から現在まで総括してみて、自分自身の変化など感じますか？

本質的には何も変わっていないですね。有り難い事に、徐々に評価をされている実感はありますが、その点に関しては恵まれていると思います。

Q TNWに関する印象は？

作品を出す前の印象としては、TNWって中長編映画を審査する全国で3~4つくらいしかない数少ないコンペティションですよ。とても面白い試みだと思います。長編映画で勝負したいという学生にとっては非常に魅力的でした。

でも出品した後の客観的な印象としては、他のコンペティションと比べてその後が続きにくいですね。他のコンペティションでは、スカラシップとして次回作の制作費を出してくれたり、広く海外の映画祭に紹介してくれたり、上映の会場を斡旋してくれたり。だから何か一つでもそういう後に続くチャンスみたいな何かがあるといいですよ。

Q 石井監督の作品はユーモラスな作品が多いですが、なぜ石井監督の作品は、常に笑いがあるのでしょうか？

お客さんには笑って欲しいからです。いろいろ理由はありますが、一つ挙げるなら、フランスの哲学者ベルクソン曰く、笑いとは人間が機械化したり硬直した時に起こる「人間を奪い返すための試み」だそうです。その考え方には、僕も大きな影響を受けています。

Q 学生時代から映画監督になるつもりでしたか？

……やっぱりなりたかったですね。でも学生の時に思っていた映画監督のイメージと現実のズレは大きいです。「映画監督」という言葉の響きはカッコいい。でも実際はただの現場監督ですよ。ただの一つの役割の担当者です。一般のイメージの華やかさとは違います。でもぼくは現場監督の方がむしろ良かったですよ。楽しいです。

Q 今後の目標はありますか？

36歳までに、人生を一回終わらせてみたいですね。つまり人生が終わっても大丈夫なくらいの仕事がしたいです。母親が36歳で死んでいるので、何となくその年齢までには自分で満足できる仕事をしておきたいという思いはあります。

殻を破れた。早く次の脚本を書きたい！



江藤有吾

『午前10時の』
第2回TAMANEWWAVEでノミネート
『惑星たちの道草』
第5回で特別賞
『ハロー・グッバイ』第9回ベスト男優賞、
ベスト女優賞のW受賞

Q第2回、5回、9回、と3回参加してますね。
TNWとは長い付き合いですが、印象は変わりました？
生まれてはじめて入選した映画祭がTNW。だから、最初に
ノミネートされたときの電話は飛びあがって喜んだのを覚えています。
でも他の人が作った自主映画を観る機会が初めてで、自分のスキ
ルの無さを感じた。なんてハードルが高いんだと思いました。第5回
の『惑星たちの道草』で特別賞取ったときは、びっくりしました。初め
ての受賞で、嬉しかったです。第9回は女優賞、男優賞両方いただ
いて。でも、そのときは(グランプリ)取る気でいたので「あ、そうなん
だ…」という感じだったんですけど。

Q最初のころから、成長した中で、今の自分が撮りたいもの
ってのは『ハローグッバイ』では出し切れませんでした？
完全に出し切った。でも、『ハローグッバイ』の脚本を書きあげたのが
2006年頃だったので、今はあれでも物足りないくらいになってるん
ですけど。サンダンスの脚本を書いてくれない？と頼まれた時に、初め
て制作費(自分の貯金)を気にしないで長編の脚本を書きました。そ
れが凄く新鮮でした。

『ロストガール』が吉祥寺バウスで上映中！



山岡大祐

『君にありがとう』
第3回TAMANEWWAVEでノミネート

Q 劇場公開中の『ロストガール』作品制作のきっかけは？
TNWに紹介してもらったドレスデン映画祭のワークショップに
参加した時(2005年頃)に、ドレスデン映画祭で自分の映画を
紹介してもらおうと企画して交渉したらOK。一方で、依存症に
かかった女性が主人公の映画を作りたいと思ってたので、それ
を組み合わせようと思いました。そこから劇場を探し始め、
一度はシネマアートン下北沢に決まったものの、突然の閉館。
それなら今自分が一番かけてみたい劇場に持っていこうと思って
ユーロスペースに飛び込んだところ、上映が決定し今年の2月に
公開しました。(現在は吉祥寺バウスシアターで公開11/27まで)

Q 公開自体は自分で納得いく結果を出せましたか？
もう、やり尽くしたと言う感じ。動員としてはすごくいいわけでは
なかったけれど、マイナスは出さなかったから、よかった。振り
返れば反省点はあるが、それを次に生かしたいなと思う。
バウスで再上映する理由は、やっぱり単館のレイトで3週間
では見られる人が限られてるので、機会を増やしていきたいと
いうこと。それと「眠り姫」の七里監督が6回目アンコール上映
やってるのを見て、すぐDVDIになるんじゃないかとある期間延々
やってるってのはカッコいいな、って。

Q 2回目ということで意気込みは？
プレッシャーは少し減ったが、考えるところが違うんでまた新た
な気持ちで向かいます。トークは前回で場数踏んで少し上手く
なりました。面白い話をしなければと思うプレッシャーに勝手に
負けてたけれど、お客さんと話をしようという意識のほうが面白
くなるんだと学びました。それはゲストで来てくれたくらたまさん
(漫画家・倉田真由美)のおかげ。必死になって、追い詰められ
ると学べることもありますね。

「“普段新聞を読んで、たまに映画を見る人”の
感覚も持っておきたい。もちろん、映画もい
っぱい観てなきゃいけないけど、映画しか観
ないでいると、そういう人たちに向けた映画
しかできなくなるから。」

今まで制作費の上限を踏まえた脚本の書き方をしてきたので。
いざ上限がなくなってみて、思いがけず自分の味を出せる場
面が幾つもありました。嬉しい発見でした。
諸事情があり、実質2週間という、あり得ない短期間で書いたの
で本当に大変だったけど、殻を破るきっかけになりました。

Q今後の江藤さんの活動は？
これから書こうと思っている長編脚本があるので、年内に準備を
進め、年明けから一気に書けるようにしたいです。『ハローグッ
バイ』に時間をかけ過ぎてしまったので、その分を脚本で取り戻す
つもりでいます。脚本だったら長編でも、早ければ半年、遅くても
1年かければどうにかなるので、今は脚本の方で歩みを止めな
いってことを目標に。今年はがんばります。10年後は一応、こ
れで食べてるってことが第一の目標。結婚して子供がいたら言う
事ないです。っていうか結婚したいです(きっぱり)

江藤有吾 Yugo Eto

1975年、埼玉県出身。「午前10時の」にて第2回 TAMA NEW WAVE
入選。「惑星たちの道草」にて第5回TAMA NEW WAVE 特別賞受賞。
「ハロー・グッバイ」にて第9回 TAMA NEW WAVEベスト女優賞・ベスト
男優賞受賞。
今年、脚本『朝日ヶ丘の素晴らしき人々』にてサンダンス・NHK国際映
像作家賞2010ファイナリスト選出。現在最終審査中。

「ある期間延々やってるってのは カッコいいな、って。」

Q NWの印象は？
長編が応募できるコンペがその当時ぴくくらいしかなかったの
で、ノミネートされたときはすごく嬉しかったです。一般審査員で一位
だったと聞き、なんで賞を取れなかったんだと思いました。当時と
ても貧乏だったので、賞金は喉から手が出るほど欲しかったん
です(笑)

Q 当時と今との山岡監督自身の変化は？
7年経ってるので、単純に外から見たキャリアはアップしてると思
います。例えば、今年サンダンスの最終審査に残ってることや、
ユーロスペースで公開したことは、当時だったら、ものすごく上の
ことのような気がしてた。昔の自分が今の自分を見たら、前に進
んでるじゃん、と思う。でも制作体制というのはそんなに7年前と
変わってないかも(苦笑)今後はもっと大きな規模でやってみ
たいです。

Q 10年後は何をしてると思いますか？
10年後かあ…とりあえず、おつきいことを言うとカンヌ・ヴェネチ
ア、ベルリンの3大映画祭のどれかには映画を出品して賞を獲
っていたいです。目標は高く持っていないとね。

山岡大祐 Daisuke Yamaoka

TCMプロデュース『みかとせいじゅん』(04)で国内外の国際映画祭に参加。
『ロストガール』(07)はドレスデン国際映画祭に招待、ユーロスペースで
レイトショー公開。新作脚本『朝日ヶ丘の素晴らしき人々』(江藤有吾と共著)
でサンダンスNHK国際映像作家賞2010のファイナリストに選出された。

【告知】

11/14(土)より吉祥寺バウスシアターにて2週間限定レイトショー/
21時より1回上映 ◎料金:当日一般1,500円※各種割引制度あり

◎イベント日程(抜粋)

●11/23(月)＝トーク 山岡大祐(監督)、松江哲明(「ライブテープ」監督)

●11/26(木)＝本編前に短編の併映あり

『みかとせいじゅん』2004年/12分/出演:磯部美香、信川清順
『ある男に関するフィルム』1997年/10分/出演:加瀬亮、本杉和夫



西條雅俊

『恋鎖』
第6回TAMANEWWAVE
高橋陽一郎賞受賞

Q TNWの印象は？

最初はある視点部門でした。ある視点は平日なので、お客さんは少なかったけれど、大きいスクリーンで、音響もよかったです。上映したときは感動した。

その数年後『恋鎖』をTNWに出しました。その年一緒に上映する人たちがわりと名の知られた人が多くて、面白いらしいとは知っていました。でも1本目を見たときにこれはヤバイ(ハイレベルの)ところに来てしまったと思った。

結果、ゲスト審査員の高橋陽一郎監督に賞をもらって、あれがひとつの自信というか、次に向かう勇気になりましたね。

Q その頃と今との変化は？

今は腰が座ってきた。当時は全然腰が座ってなくて、何をやるにしてもドキドキしていましたね。

ただ、その反面、思い切った作品はだんだん作れなくなってきた。

ワークショップ出身 異色の女性作家



星崎久美子

『茜さす部屋』
第9回TAMANEWWAVE
クレークアンドリバー賞
(スポンサー賞)受賞

Q 12月12日からアップリンクにて公開予定の『茜さす部屋』について聞かせてください。

数年前に撮影したにも関わらず、テーマは今流行の「婚活」に近いものがありますが、なぜこの題材になったのですか？

ちょうど2006年、25歳になる年に映画を撮るために仕事をやめました。区切りの年というか、仕事をバリバリしてる知人の30代の女性が体調崩しちゃって、子供産みたいから仕事やめる、とか。

そういうことってなさそうな人が意識してるのを知って。自分は意識してなかったけど周りが意識してるのを改めて感じたのがきっかけですかね。

Q 映画監督のキャリアとしては遅いですよね？具体的にはどのようなプロセスで映画を撮っていったのですか？

そうですね。大学時代サークルに在籍してたけど、作品は作ってませんでした。

アップリンクのワークショップで作品を作って、東京ビデオフェスティバルに出したら入選しました。それが、2005年くらい。「才能ある、じゃないけどゼロではないな」、「ちょっとは人が良いと言ってくれるところがあるのかな」と思い、それで物語を作ってみたいなと思いました。

次に堀江慶さんのワークショップ(注)に参加しました。堀江さんののが初長編だったけど、スタッフはプロが入ってくれたので

(注)映画監督 代表作『ペロニカは死ぬことにした』など

Q 今『茜さす部屋』を振り返ってどう思いますか？

人の力を借りてもいいんだな、って思った。自分ひとりでなんとかしなくてもいいんだと思った。その方がおもしろくなることもたくさんあるので。

「映画作らないと自分の中でどんどん何かが足りなくなって、どこかむなし。空虚になる。だから、10年後もやっていると切り切れます。」

Q 次の一步をどこに踏み出すか、前より考えてしまう？
考えますね。貪欲になってきた。自分が面白いと思えるものでないと納得しない。そこをクリアしないと表現じゃないだろうと自分の中で妙にハードルが上がっちゃったところがありますね。

Q 今一番撮りたいものは？

もう固まっています。そのおかげで困っています(笑)
それを撮らないと次に行けないです。去年からずっと動いてるんですが、いろいろあって延びてまして。練り直して面白くなってはいますが、その繰り返しです。

Q 10年後の自分は何をしてる？

映画を作ってます。どんな環境にいるかはわからないけど、作ってます。映画作らないと自分の中でどんどん何かが足りなくなる。日常生活こなせているにも関わらず、どこかむなし。空虚になる。だから、10年後もやっていると切り切れます。

西條雅俊 Masatoshi Nisijo

日本大学芸術学部映画学科卒業後、CM制作会社を経て自主映画制作を始める。

国内コンペティションに入選、受賞暦多数。2006年TAMA映画祭コンペティションで受賞した長編映画「恋鎖」を劇場公開し監督デビュー。2009年オムニバス映画over8にて短編「土井さんの不幸」を公開。現在、次回作を準備中。

「人の力を借りてもいいんだな、って思った。自分ひとりでなんとかしなくてもいいんだと思った。その方がおもしろくなることもたくさんあるので」

Q 2008年に参加したTNWの印象を聞かせてください。

スタッフの方たちが、会うと皆感想を言ってくれて。「ホントにこの作品をいいと思って入選させたんだ」と感じ嬉しかったです。作品もやっと日の目を見ることができ、他の人の意見も初めて聞けたので、参考になりました。

12月に公開が決まった配給はTNWの時にも会ったアルゴピクチャーズさんを紹介してもらいました。

Q 今後作家として、やろうとしていることは？

今まで若い女性(自分に近い役柄)ばかり描いてたので、そうでないもの、若い男の子とか青春っぽいものを書いてみたい。あと、脚本をもっと勉強したいと思います。

Q 10年後は何をしてると思いますか？

難しいですね...(映画は)仕事としてやっていきたい。出来ることがあれば、自分の考えていることでお金をもらえるようになっていきたいです。女性としての10年後は想像できない。こういう人生にしたいというのがまだなくて。38歳ですか...もうすぐ40だ、とあわててるかも(笑)

星崎久美子 Kumiko Hoshizaki

1981年、神奈川県出身。
青山学院大学卒業後、TVCM制作会社へ勤務。会社勤めのかたわら、映像制作を開始。短編『おぼろげに』が東京ビデオフェスティバル2006にて優秀賞受賞。『茜さす部屋』で第9回TAMA NEW WAVE・クレーク・アンド・リバー社賞受賞。2009年12月より、同作品の劇場公開が決定。
★★★『茜さす部屋』を含むオムニバス映画「ゼロ年代全景」★★★
12/12(土)より渋谷アップリンクXにて公開。初日イベントあり。
★劇場窓口、TSUTAYA渋谷店にて特別鑑賞券

(当日1300円のところ1000円)発売中★

『えてがみ』
第4回 TAMA NEW WAVEノミネート
『かざあな』
第8回 TAMA NEW WAVE
グランプリとベスト女優賞(秋桜子)
のダブル受賞

第8回TAMA NEW WAVE グランプリ受賞。 ドキュメンタリーの新しい波、到来。その波は海外へ。

内田伸輝



「商業映画監督になりたい
というよりも、どうしても作品を
作りたいという意欲の方が強いんです。」

Q 最初のTAMA NEW WAVE (以下TNW) の印象は？

TNWで凄くいいと思ったのが、最後、受賞結果を発表する前に、一般審査員と実行委員の審査方法をまず話して、それから受賞者を呼んでいたというのがあって、あれがあるだけで物凄くクリーンなイメージでしたよ。

もったいないのは、もっとお祭り騒ぎだったらいいな、という印象です。まあ、ほとんどの映画祭が実際はそうなんですけど。

なぜお祭りがいいかっていうと、第4回TNWに参加する直前に、山形国際ドキュメンタリー映画祭に行っていて、山形は本当に街をあげての「お祭り」なんです。国際映画祭なので色々な国から来る人も居て、結構カルチャーショックで。そのショックを抱えたまま多摩に来た、って感じだったんです。

なので映画祭よりも「上映会」って感じの印象を受けましたね。

具体的には、連日会場を転々としてコンペしたり、もっとTNWを他のプログラムと混ぜていけたらいいんじゃないですか？

他の会場は、やっぱり商業映画が2~3本立てで安く観れるっていうのはかなりおいしいじゃないですか。しかも盛り上がるし。

あの雰囲気のままコンペに入れれば、すごくいいなって思います。

でも、それ以降ほぼ毎年TNWには何かと参加してるんで、楽しくなってきました。

「TAMA NEW WAVEは クリーンなイメージですよ。」

Q 『かざあな』で、ぴあフィルムフェスティバル (PFF) で審査員特別賞を受賞したあと反響、展開はありましたか？

バンクーバーの映画祭に行っただけです。もちろん自分でも応募できるんですけど、PFFだと海外の映画祭関係者が回ってきて試写室で観て、何本か選んで海外の映画祭に持ってってくれる。

そういうシステムだったので、まあ、PFFには通っておきたいなど。

英語字幕も付けて。自腹なんで結構お金がかかりますけど(笑)

それでバンクーバーには行けました。反応は悪くはなかったです。

今後海外にも出品したいです。自分で海外の映画祭に応募することもやってみたいと思っています。

Q 『えてがみ』はあまり見たことのないタイプのドキュメンタリーですよね。

最初からドキュメンタリー志向だったんですか？

でした。1995年に父親のドキュメンタリーを撮って、そこからはずっとドキュメンタリー志向で。

でもホントはすごいフィクションをやりたいという思いがあって。フィクションぽいドキュメンタリー、みたいなことを最初の頃から意識していましたね。

「脚本は自分の旅行のガイド
ブックみたいな物です。
出演者には自由に旅して欲しいです。」

Q 違うテイストの作品でチャレンジする気はありますか？

いや、ないです。本当は「こっち」がいいのに違うテイストでやって「そっち」が当たったら、「そっち」でどんどん作る事になってしまうと思うので…

例えばホラー映画の話が来たとしてもドキュメンタリーのホラー、コメディが来たならドキュメンタリータッチのコメディをやりたい。

撮りたいものの構想はたくさんあるんです。長編短編問わず。テイストを守れるのであれば、どういう形であれやってみたいとは思っています。

「自分のテイストは変えないです。
ホラー映画の話が来たとしても
ドキュメンタリーのホラー、コメディ
が来たならドキュメンタリータッチの
コメディをやりたい。」

Q 次回作はもう動き始めてますか？

今はとりあえず脚本は終わって。キャストが集まって。テスト撮影を経て、来年1月で撮影始めて終わらせる、という予定です。短編なので、短期間で撮るつもりです。今度は4年もかけない(笑)(注1)

方式は『かざあな』形式で撮ります。『かざあな』と似たような感じの恋愛模様なんです。テイスト、形式は変えず、それをもっと効率よく早く終わらせる方法でやってみようと考えてます。自分にとって脚本は旅行のガイドブックみたいなもの。出演者には自由に旅して欲しいです。

(注1)『かざあな』は製作に4年かかっている。

内田伸輝 Nobuteru Uchida

2003年、ドキュメンタリー映画『えてがみ』が、第25回 PFFアワード2003にて審査員特別賞を受賞、第28回香港国際映画祭ドキュメンタリー部門では、スペシャルメンションを授与され、多数の国内外の映画祭にて上映される。その後、短編映画『温もり』はTAMA短編映画祭にて招待上映。『かざあな』は第8回 TAMA NEW WAVEコンペティション部門にてグランプリとベスト女優賞(秋桜子)をダブル受賞、ひろしま映像展2008ではグランプリ、演技賞、企画脚本賞をトリプル受賞、第30回ぴあフィルムフェスティバル PFFアワード2008では、審査員特別賞を受賞、第27回バンクーバー国際映画祭ドラゴン&タイガーアワード ヤングシネマ部門にて上映される。

現在、短編映画の最新作を2010年1月に撮影予定。

これが本当の映画「祭」だ！！

山形国際ドキュメンタリー映画祭(YIDFF)

YIDFFはホントに「祭」だった。アツさが違う。この会報のP10の内田監督と同様の印象を持った。地元の人がYIDFF存在を認知し、東京在住の山形県民は誇らしげにYIDFFを語る。そんなYIDFFは素晴らしい映画祭だった。(河)

ジャズバンドが街頭演奏街もお祭り騒ぎだ

打ち上げ会場の飲食店

YIDFF映画祭プログラム

毎回毎回、多様なプログラムで観客を飽きさせない山形映画祭。今年も様々な角度から焦点を当てたドキュメンタリー世界から終結。主なものを紹介する。

・「インターナショナル・コンペティション」
映画祭第一回目から継続。世界中から送られてきた映画の中から、厳選され上映される作品たち。今年15本が上映された。

・「特別招待作品」
映画祭スタッフによって選ばれた作品たち。今年小川伸介監督や土本典昭監督の映画も上映された。

・「アジア千波万派」
アジアに焦点をしばり、厳選され上映される作品群。今年57の地域、国から総数655本の作品が応募された。

・「ニュー・ドックス・ジャパン」
日本人監督による、日本を舞台にした作品。日本人監督による、外国を舞台にした作品。外国人監督による、日本を舞台にした作品。こういった、「日本」に纏わるドキュメンタリーを上映する。

・「シマノ島一漂流する映画たち」
「島」に焦点を当て、島に息づく文化や生活を垣間見る。

台風で始まった映画祭

2009年10月8日、山形県山形市にて、YIDFFが幕を開けました。

ちょうど台風が襲来し、台風の中、スタートを切った今年の山形。映画祭は1週間開催され、今年で第11回目を迎えます。YIDFFの特徴は2年に1回行われるということ。映画祭のない1年は、東京でも山形プログラムの上映が行われるなど、来る次の映画祭に向けて着々と準備期間に復しています。

そして、何よりも大きなYIDFFの特徴は、名称にもあるように「ドキュメンタリー映画祭」であるということです。「ドキュメンタリー、虚構によらず事実の記録に基づく作品。」このような定義の通り、ここで上映される映画はすべて事実によるもののみです。従って映画に出てくる人たちも、私たちと何ら変わらない、それぞれの生活を生きてきた人たちです。そういった人々が監督の手により焦点を当てられ、映画の主人公となっていきます。

今年の映画祭も多様なプログラムが展開され、観に来た観客はお腹いっぱい帰ったのではないのでしょうか。何より空気がおいしい山形。そしてその空気が生んだ食べ物が一段とおいしい山形。

また、YIDFFは映画を楽しむだけでなく、「山形で行う」という特色を存分に発揮している映画祭でしょう。きっと滞在している間、地域の人たちと触れ合い、帰る頃にはお腹も心も満たされているという、二重にも三重にもおいしい映画祭ではないのでしょうか。(佐)

第8回はままつ映画祭2009

2009年4月18日(土)に開催した

「大丈夫であるように-Cocco 終らない旅-」上映会。その会場で集まったたくさんの感想やコメント「想い事。」は6月20日(土)に実行委員の山口渉が沖縄・辺野古の浜辺に届けてきました。

そして10月25日(日)第8回はままつ映画祭2009の会場でも「大丈夫であるように」上映と、アースデイはままつのみなさんによるワークショップ「メッセージ・リボン、私の「想い事」とストーン・ペイントが行なわれました!! 本映画祭のBlogの掲載内容にいただいた問合せをきっかけに、浜松でも「想い事。」がたくさん集まる結果となりました。簡単ですが、はままつ映画祭の参加レポートを掲載します。

【10/24(土)13:30~】活動弁士&生ピアノ演奏!!

~オープニング上映「結婚哲学」~

(監督:エンルスト・ルビッチ/85分)

「大丈夫であるように」上映の前日に浜松入りした僕は、はままつ映画祭で定番になっている活動弁士付きの無声映画上映「結婚哲学」を鑑賞。今年活動弁士に加えて生のピアノ演奏も加わり、会場はある種の緊迫感と一体感で包まれていました。弁士・演者の即興性のあるコラボレーションは見事で、無声映画を観ているのか、効果音のついた吹替の映画を観ているのかわからなくなるほどの完成度に感激してしまいました。浜松は音楽のまちとしても知られ

ていて、はままつ映画祭もCinema & Musicと副題をつけています。企画ごとに地域の団体などとの共催・コラボレーションを図っているのだな、と特徴を感じていました。



【10/25(日)13:30~】「大丈夫であるように」上映&ワークショップ

~アースデイはままつ×はままつ映画祭の共催~
そして、アースデイはままつがはままつ映画祭と共催として上映した「大丈夫であるように」。会場は浜松科学館ホールと、イベント上映に適した空間でした。やはりこの作品のもつチカラに驚かされた僕ですが、たくさんの方がメッセージ・リボンをつくってくださり、感想や願い、祈りが連なりました。アースデイはままつではこれ以外に映画に関連するものとして「沖縄の海とジュゴン」「六ヶ所村と核燃料再処理について」、地域の環境に関連するものとして「中田島砂丘の現状」「浜岡原子力発電所について」などのパネル・写真などの展示やストーン・ペイントの体験など、盛りだくさんの内容のワークショップはたいへん盛況でした。

たまシネマ通信

#3

TAMA CINEMA FORUM

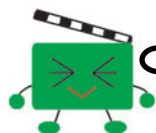
へようこそ

目次

- P1 号外！八千草薫さん来場！
- P2-5 TAMA CINEMA FORUMについて
- P6 映画祭イチオシプログラム
- P7 TAMA NEW WAVE長編映画コンペティション
10周年作家インタビュー特集
石井裕也監督
- P8 江藤有吾監督・山岡大祐監督
- P9 西條雅俊監督・星崎久美子監督
- P10 TAMA NEW WAVEコンペティション
グランプリ受賞者 内田伸輝監督
- P11 他の映画祭紹介
第8回はままつ映画祭2009
山形国際ドキュメンタリー映画祭

多摩市の秋は
TAMA CINEMA FORUM

八千草さんに
表紙とられちゃったぜ…



ドンマイ！ブラボー先輩



◆発行：TAMA映画フォーラム実行委員会

◆お問合せ：〒206-0025 多摩市永山1-5（ベルフ永山） 多摩市立永山公民館内
TEL 080-5450-7204（直通） 042-337-6661（公民館） FAX 042-337-6003

※上映内容などは変更になる恐れがございます。

ホームページアドレス： <http://www.tamaeiga.org/> などでお問い合わせ・確認の上ご来場ください。

購入方法など詳しくは→<http://www.tamaeiga.org/>